

令和6年度 横川中学校 第1回いじめゼロ集会の様子

横川中学校 生徒指導部

6月26日（水）に全校放送にて、生徒会主催の今年度1回目となる「いじめゼロ集会」が開催されました。本校の「いじめゼロ集会」は年間2回（6月と10月）開催され、生徒会執行部が企画、準備、運営にあたり、全校生徒がいじめ問題に関心を持てるような内容を考え、年々充実した集会となっています。

今回は『SNS、傍観者』をテーマに、NHK『いじめをノックアウト』のドラマ教材『SNSに友だちの悪口…見つけたらどうする？』をもとに、どのようにいじめを無くしていくかを考えました。

【ストーリー紹介】

シーン①

<劇のリーダーに選ばれた花子さん>



クラスで行われる劇のリーダーに選ばれた花子さん。最優秀賞を目指そうと、クラスメートたちに厳しく接してしまいます。そんな花子さんに、クラスメートたちの不満がたまっています。

シーン②

<クラスメートのプロフィール欄の異変>



そしてある日、SNSを見た花子さんは、クラスメートたちのプロフィール欄の異変に気がきます。本来は自己紹介やちょっとした日記のをのせるところに、誰に向けてかは分からない悪口が書かれていたのです。

シーン③

<花子さんの思いは大切だと思うけど>



どうすれば花子さんへのいじめをとめられたのか。大阪市立田島中学校の生徒会のメンバーと一緒に考えます。「花子さんの気持ちも分かるけど」、「そりゃグチもでるわ」「自分も(命令されたら)やっちゃうかも」など様々な意見がありました。

シーン④

<プロフィールは『目につきやすい場所』>



高橋さんは、「人に見える形でやるのはよくない。『ホントはそう思ってるよ、言葉では直接言わないけど』というのはやっぱりいじめ。意思表示の場所がプロフィールの一言になってしまったのかな。」とコメント。

シーン⑤

<傍観者として書きこみを見つけたら>



傍観者として見つけたら自分ならどうするかを話し合います。「何も反応しない」「悪口に参加しなかったら次は自分も…」「書いた人は共感を求めているのかも…」「完全にいじめをなくすなら、反応しないのはダメ」などの意見がありました。

シーン⑥

<まず先生に言う・一時的はイライラが残る>



止めるためにどうしたら? 「こそっと先生に言います。先生だったら正しい答えを持っているし、自分がハブられないように対応してくれるはず。」一方で、「変な流れになるから、場を和ませる。」という話も…。

シーン⑦

<悪口を書いた人の思いも聞いてあげる>



悪口を書いた思いに寄りそい、解決の糸口を探ろうということに。「聞いてあげたら書くこともないだろうし、イライラを抑えてあげたい」「共感するだけでもイライラや不満はなくなると思う。聞き流すだけでもエスカレートしない効果はあると思う」との意見も…。

シーン⑧

<「どちらのケアもすべき」>



高橋さんは、「自分がもしあの教室の中にいる立場なら、花子さんの隣に立つかな。一回花子さんに話を聞いて、標的が一人にならないようにして、その後その二人に話を聞く。どっちのケアもすべきかな…。片方だけやるのはちょっと違うかな」とコメント。

シーン⑨

<「傍観者の中に仲間を作る」とは?>



高橋さんは大事なこととして、「一人で動かず、傍観者の中に仲間を作ることを提案する。そのために学校で話すのではなく、そんな時こそSNSを使って、同じ思いの仲間(傍観者)を探してほしいと話す。

【生徒の感想・今後に向けて】 ※代表生徒のコメントから(一部抜粋)

1年	1組	SNSは便利なものではあるけれど、使い方を間違ってしまうと、相手を嫌な気持ちにさせてしまうことも考えて使用していきたいです。
	2組	本当に些細な事からいじめは始まってしまって、誰が標的にされるのか分からなくて怖いと思った。いじめが起きそうな場面に遭遇した時は、まずどちらの話も聞いてあげて防いでいこうと思います。
	3組	いじめは直接言ったりすることだけでなく、SNSなどに書いてすることもいじめなので、それでいじめている子がいたら注意したいと思った。いじめはやっぱり、してはいけないものだと感じた。
	4組	傍観者がいじめる側になってしまうと、すごい力となり、いじめられている側をすごく傷つけてしまい、最後は不登校や、最悪の場合自殺してしまったりもあるため、発言や態度に気をつけていきたいと思いました。
	5組	いじめは簡単に起きる可能性があるけど、いじめを終わらせるのは難しいということが考えられた。いじめをしている人は、いじめをしていると気づいていないことも考えられる。今後はいじめや争いがあつたら止めに入ろうと思った。
	6組	SNSに悪口を書いたりするのはもちろんダメだけど、それを見ている傍観者も見ても見ぬふりをしない方がいいと思いました。今後気を付けていきたいです。
2年	1組	いじめだと思われることはしないことはもちろん、いじめを見ている側だとしても、いじめを止められるように、見ている側同士で話し合ったりして、より良い解決方法を見つけられるようにする。
	2組	SNSを使う時には誰かを傷つけたり、不快な気持ちにさせてしまったりしないように気を付けて使い、友達に良くない使い方をしている人がいたら注意できるようにしたい。
	3組	こういう場面があった時には、進んで行動できるようになりたいと思った。SNSはどうしてもこういうことが起こりやすいと思うから、もし使う時には気を付けたい。
	4組	SNSのプロフィールを使って、悪口を書いたりするいじめがあることを知り驚きました。いじめを見て見ぬふりをせずに、やられている側の気持ちを考えて行動していこうと思った。
	5組	いじめは自分が気付かないうちにやってしまっていることもあるし、自分の周りでも起こっているかもしれないけれど、やられている本人は傷付いているので、それを見ている人たちが助けられるということが1番良い行動ではないかと思った。
	6組	SNSの使い方も見直したいと思いました。SNSは、悪口を書きこむ場所ではなく、コミュニケーションをとる場所として有効に使ってきたいです。
	7組	SNSは目にすることも多く身近な存在なので、誰か1人が発信したことは多くの人の目に入るし、拡散されたりして広まるのが早いので、まず書きこまないことが大切だと思った。またSNSだとニュアンスが分からないので、直接伝えるようにしたい。
3年	1組	いじめをされている人がいたら、する側ではなく、されている側の味方に行き、気持ちを聞いて解決法を出す。いじめは1人で解決するのではなく、先生、保護者、友達に相談する。
	2組	身近にあるいじめだったから考えやすかったし、いじめは傍観者が何か行動を起こすことが大切だと思った。生徒会長も言っていた自分の言動に責任をもち、常に相手の気持ちを考えて、いじめが起きない雰囲気を作っていくことが大事だと思った。
	3組	ネットを使ってのいじめの例を見て、ネット、SNSが悪用されてしまうのではないかと考えたが、その解決方法にこそSNSが使えることを知って、やはり何事も適切な使い方をすることが大事なのだと思う。正しい使い方について改めて考えていきたい。
	4組	誰も相手に不満があるから、悪口を言うことは仕方ないと思う。でもその本人が見えるところにいちいち書いたり、危害を加える必要はないと思った。いじめをなくすなら、受け入れる気持ちや割り切る気持ちが必要かもしれないと思った。
	5組	最近はSNSにも自分の気持ちをすぐ書ける場所があるから、もし友達が悪口や相手が傷つくような事を書いていたら、その子の気持ちを聞いてあげて、自分が対応できる範囲だったら、しっかりと解決させてあげて、絆を深め合ってほしいです。
	6組	実際にこの動画のような書きこみをしている人を見たことがあるため、他人事ではなく、身近に起きている問題として捉え、自分なりに考えることができた。今後はいじめを適切に対処するにはどうすればよいか、この集会で考えた事をもとに対処したい。

